

4-6 伊豆半島におけるラドン観測 Radon Observation in the Izu Peninsula

東京大学理学部

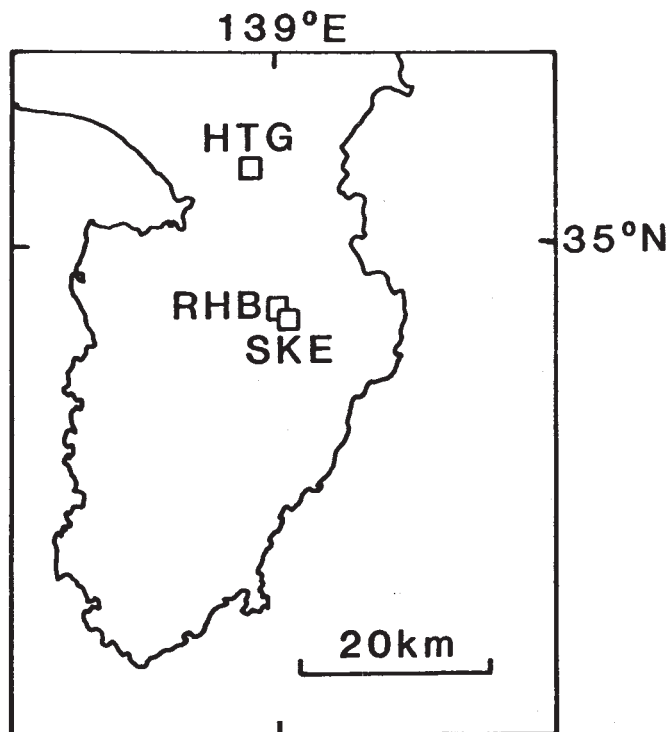
脇田宏, 中村裕二
Hiroshi Wakita, Yuji Nakamura
Faculty of Science, University of Tokyo

前報¹⁾に続いて、伊豆半島3地点、函南 (HTG)、中伊豆 (RHB および SKE) における自噴地下水中のラドン濃度の連続観測結果を報告する。観測地点の位置は第1図に示す。

第2図は、1981年1月から10月までの期間における各観測点の連続観測記録から2時間毎に読みとった値の12点移動平均を示す。縦軸は、平均値に対する偏差を表わす。HTG における変動率が比較的高いのに対して、RHB、SKE の変動は極めて小さい。HTG の変動は人工的揚水の影響のためと考えられる。冬季にみられる RHB の変動は例年観測されるものである。

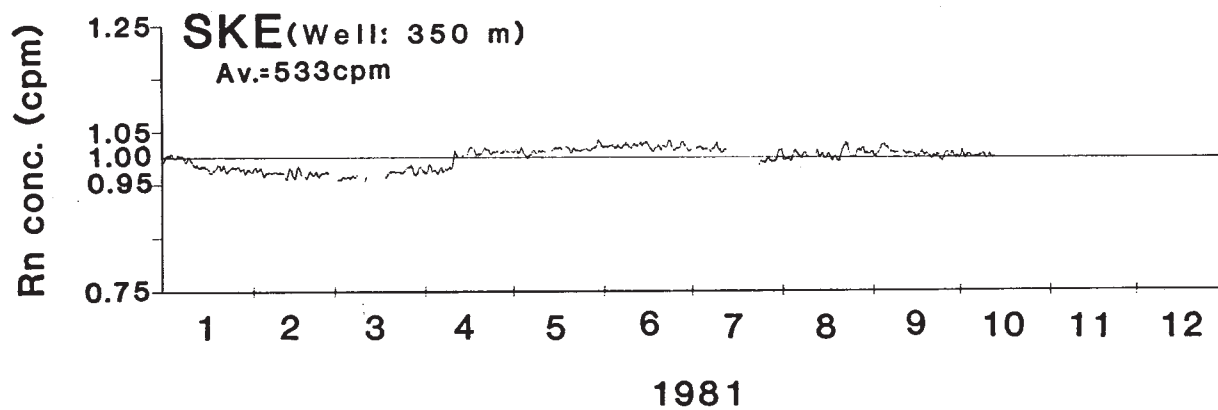
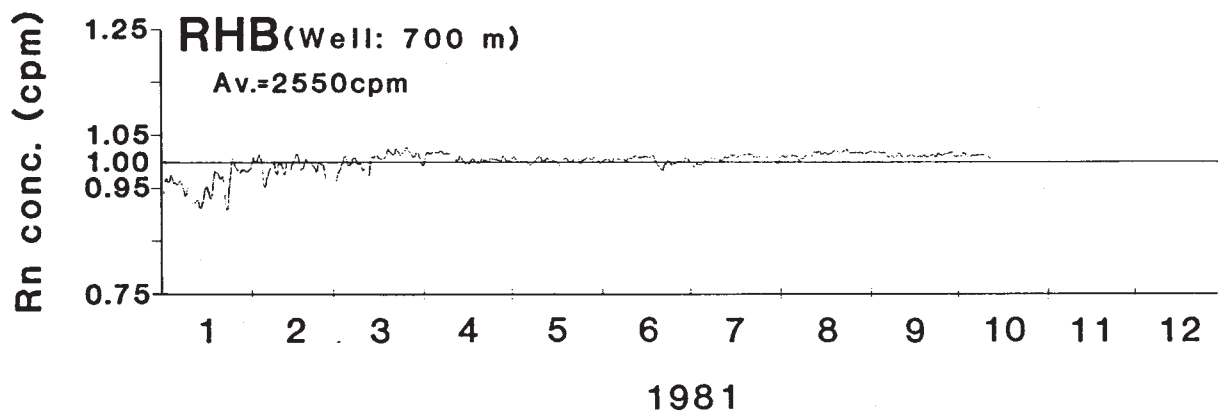
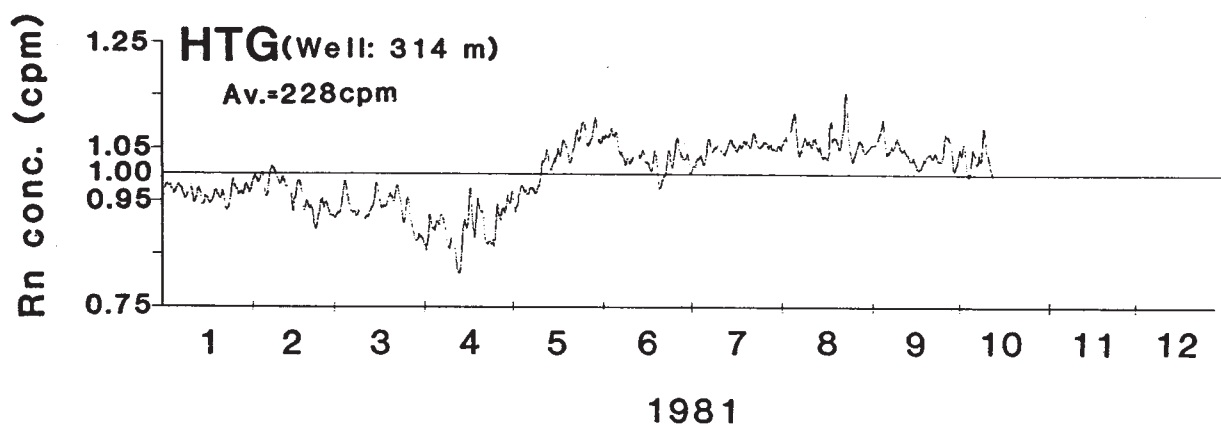
参 考 文 献

- 1) 脇田宏, 中村裕二, 伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測, 連絡会報, 25 (1981), 186-188.



第1図 伊豆半島におけるラドン濃度観測地点の位置。

Fig. 1 Location of Rn observation sites in the Izu Peninsula.



第2図 HTG (函南), RHB (中伊豆), SKE (中伊豆) に
おけるラドン濃度の変化 (1981 年 1 月 ~ 10 月) 。

Fig. 2 Time variations in the radon concentration observed at sites HTG (Kannami), RHB (Nakaizu) and SKE (Nakaizu) during the period between January and October, 1981.